

●天幕生活を共にした著者が描く「近代的」移動芸能集団の実相。外部との関係や内部統制、また団員の個人史は、韓国の人と社会をえぐる優れたルポルタージュである。

# 韓国サーカスの生活誌

## 移動の人類学への招待

神田外語大学 林史樹 著

本書では、韓国で今日も興行を続けているサーカス団とその構成員の行動様式を紹介しながら、「移動」というものが人々に与える影響について考えていきたい。

後半では、構成員の「流動」という部分に着目し、それが集団に対して果たしている役割と、そのような構成員からなる集団がいかに集団として移動を続けてきたのかに注目する。そして、流動を含む移動が、個人個人の「所有」の意識との関係で成立していることを指摘したい。

本書では、韓国のあるサーカス団を扱いながらも、その枠組みを超え、移動集団全体、あるいは「ヒト」の移動に対しても有効な枠組みを示したい。これは、筆者が今後も続けていく移動研究の序章となる。

本書で目標とする点は三つある。

①一九九〇年代半ばに活動していたある韓国サーカスで筆者が見聞したことを生活誌として保存する。これまでに韓国サーカスは研究対象として顧みられることがなかったことから、その記録は重要な価値をもつ。

同時に、移動生活者についても韓国社会ではあまり知られていなかったことから、綿密な現地調査に基づく移動集団や移動生活に関する研究は韓国研究に新たな研究分野を提示することになる。

②移動集団にみられる構成員の流動性と統合がどのように起きていたのか、またそれらが移動集団にとってどのような役割を果たしていたのかを検討する。

③移動と所有をめぐる関係性について考察し、それがいかにヒトの流動とかわわっていたかについて検討を加える。その議論の一つの帰着点として、移動と所有の関係性が移動集団の各構成員に影響を及ぼしており、その結果として構成員の流動が発生していたという見解を導く。この移動と所有をめぐる議論は今後の移動研究に有効な視点を与えるものと考えている。

まえがき サークスに魅せられる人々

序章 韓国におけるサーカスの位置づけ

一 韓国におけるサーカスとサーカス研究

二 「韓国サーカス」とは

三 韓国サーカスから何がみえるか

四 韓国サーカスの見方——本書の構成

一章 韓国サーカスの過去から現在

一 韓国サーカスの「生い立ち」

二 韓国サーカスの現在

三 Dサーカス団の構成員

四 サークスの日常生活

二章 対「外」関係と内部組織

一 韓国サーカスと外部社会

二 サークス集団組織の構造

三章 移動生活にともなう意識と流動性

一 意識と行動パターン

二 構成員の流動とその要因

四章 移動生活と構成員の流動

一 集団からの離脱と集団としての統合

二 背景としての移動と所有の関係

終章 移動のこれから

一 移動からみる韓国社会

二 展望——移動にみる変化と持続

あとがき 天幕からの風景

参考文献・索引

体裁

・四六判・上製カバー

・二五六頁

税込み定価

・二六二五円

(本体二五〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一四一九  
電話〇三(三八二八)九二四九  
http://www.fukyo.co.jp

注文書	
流通センター取扱品	
出版	発売
地方	風響社
ISBN978-4-89489-117-3 C1039 ¥2500E	TEL: 03-3828-9249
林史樹 著	税込み
韓国サーカスの生活誌	二六二五円
移動の人類学への招待	部

〔お客様控え〕

ご氏名  
ご住所  
お電話

月 日